

平成27年度

病院事業会計決算の概要

平成27年度の大崎市病院事業会計決算の概要についてお知らせします。

年間入院患者数は、212,366人で前年度より14,838人増加し、年間外来患者数は、364,748人で前年度より9,341人増加しました。

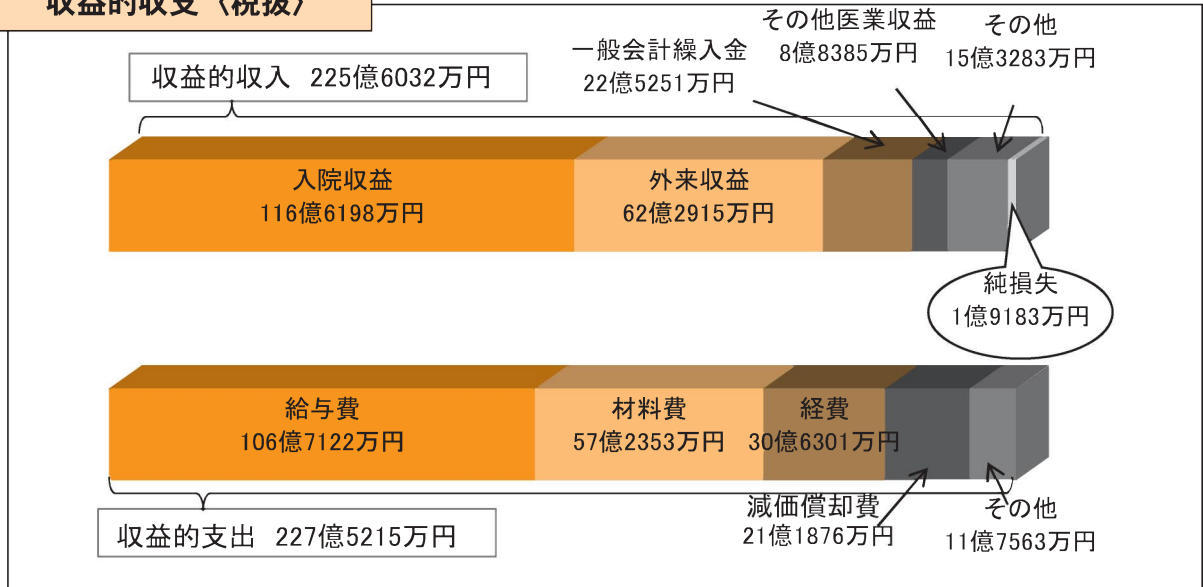
経営状況については、病院事業収益は225億6,032万円、病院事業費用は227億5,215万円で差引1億9,183万円の赤字決算となりました。

前年度は、本院移転に伴い診療制限を実施したため患者数に落ち込みが見られ、さらに、移転に伴う経費や地方公営企業会計基準の改正による特殊経費が発生しました。

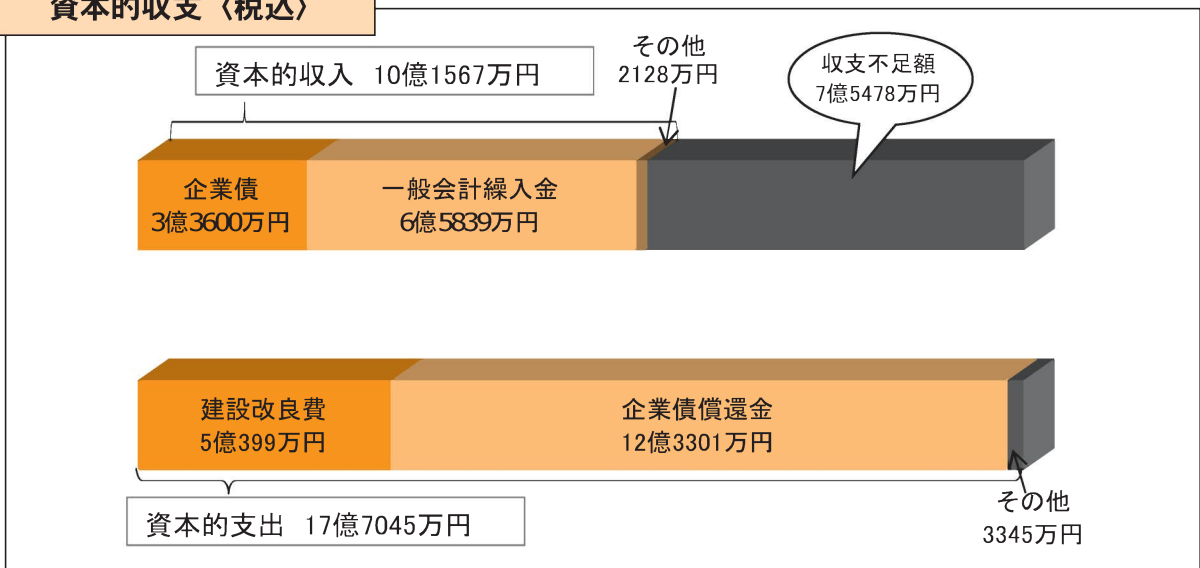
今年度は、新本院が開院して2年が経ち、収益では化学療法や手術件数の増加、新たな施設基準の取得などによる増加がみられました。一方の費用では、新本院の建物や開院時に整備した医療機器に係る減価償却費の増加や医療スタッフ増員に伴う給与費の増加など経常的な費用が増加しています。分院及び診療所においては、地域の人口減少等による患者数の減少に伴い、病床稼働率も低下しています。

今後は平成30年度の本院500床稼働に向け、医療スタッフの確保等体制整備を進めながら、本院・分院・診療所が地域におけるそれぞれの役割と機能の分担を図り、医療の質の向上と経営改善に全力で努めます。

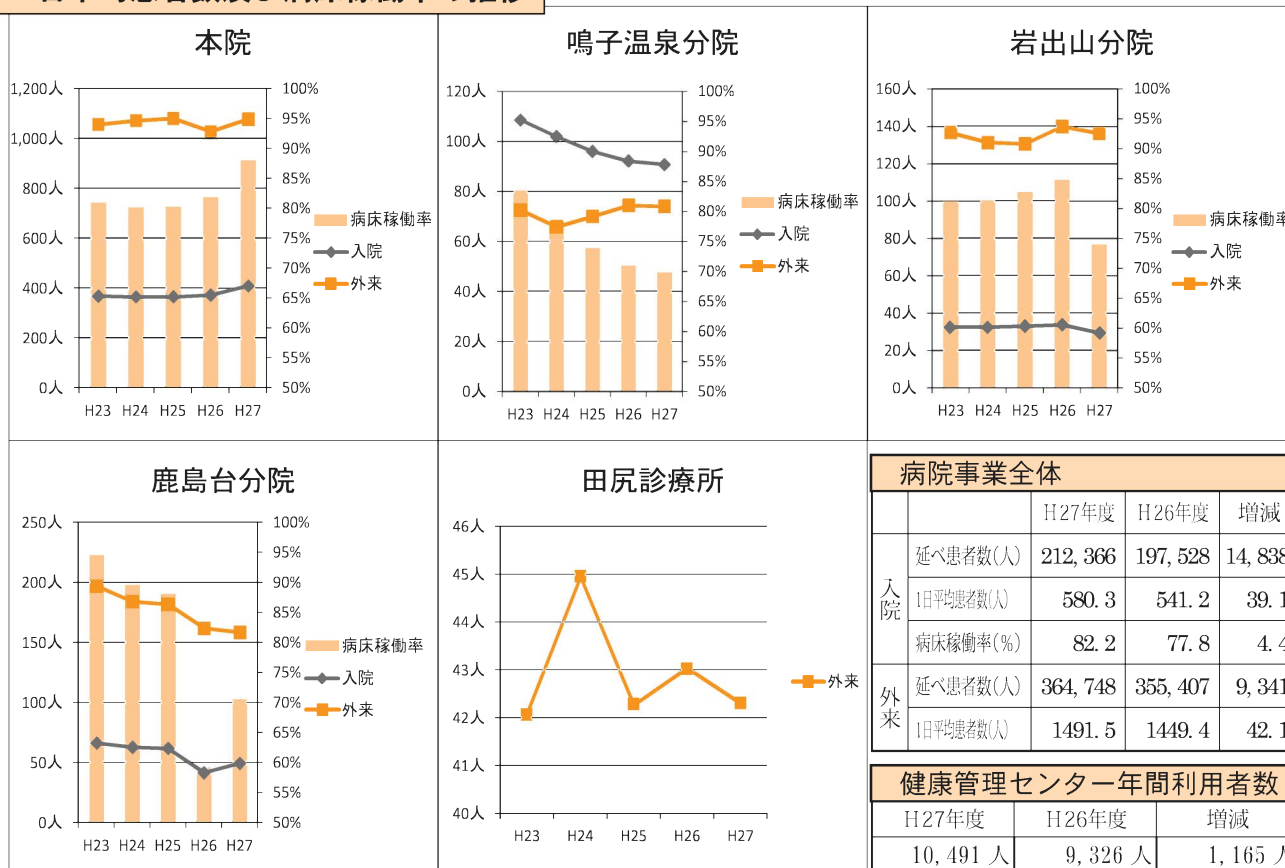
収益的収支〈税抜〉



資本的収支〈税込〉



1日平均患者数及び病床稼働率の推移



用語解説

【収益的収支】

医療サービスの提供やこれに付随する事業など、病院の1年間の経営活動によって生じた収益を「収益的収入」、また、これらの収益を生むために要した費用を「収益的支出」といいます。「収益的収支」とはその差引額のこと、1年間の病院の経営成績を表します。(収入が支出を上回れば「黒字」、下回れば「赤字」です。)

【資本的収支】

医療機器の購入や施設整備に要する支出、また、医療機器購入等のために借入れた企業債の元金返済に要する支出を「資本的支出」、この財源となる企業債や一般会計からの補助金を「資本的収入」といいます。

【病床稼働率】

病院のベッドがどの程度効率的に稼働しているかを示す数字です。100%に近いほど空いているベッドが無い状態で利用されていることとなります。病院の経営の質を示す指標として活用されます。